

## 特集「日本ユニシスグループのテクノロジー」の発刊によせて

丸 山 修

本誌は、創刊 25 周年記念号の第二弾である。これまでも技報では、折に触れて情報技術のオープン化、インターネット化、ユビキタス化に対応した日本ユニシスグループの実践と検証の結果を紹介して来た。お客様の抱える課題に対し、我々が提供する技術を信頼していただく一助としていただきたいという思いからである。本特集号では、お客様の抱える課題に対し、具体的なソリューションとしてその解決を実現する方向性を示した前回（88 号）の特集：「日本ユニシスグループのソリューション」を引き継いで、それを支えるリアルタイムインフラストラクチャと総称されるテクノロジーについて、解説、報告している。

情報技術があらゆるビジネスの基盤として機能している現在、ビジネスの視点から出てきた要請を情報技術が一方的に受け入れればよいという時代ではなくなってきている。新しい情報技術を積極的に活かして、ビジネスの強みを発揮した個性的なシステムを実現しビジネス機会を拡大していくことこそ、むしろ望まれる。また、情報システム部門が担う企業のリスクマネジメントの役割も大きくなってきている。テクノロジーの変化に伴うシステム・アーキテクチャの革新や、データ処理の急激な増大に対するキャパシティ・プランニングの見直し、アプリケーション統合の推進、などの情報技術上の課題に対する投資を怠ることにより、ビジネス上どのようなリスクが生じるのかを経営者や事業部門に理解させておくことが重要となっている。

日本ユニシスグループは、お客様の抱える課題を解決するために情報技術とサービスの組合せをソリューションとして提供している。ソリューションの提供によりお客様の課題を解決することに寄与するだけでなく、個々のテクノロジーの提供にあたり、経営課題に応じたテクノロジーを選択する基準を示していくことも使命と考えている。そのような観点から本特集では、ソリューションを支えるテクノロジーに関してまとめている。ここで取り上げているテーマは、カーネル技術、データベース技術、通信技術などの「基本技術」と、移行技術、運用管理技術、ソフトウェアエンジニアリングなどの「アプリケーション技術」、そしてその境界をなす「ミドルウェア」からなっている。

基本技術の領域では、Linux などに見られるようにコアな領域として標準化、オープンソース化の動向が注目される。コンピューティングの領域では、ユビキタスや組込みに見られる新しい分野が現実化してきており、また google に代表されるような検索技術の持つ重要性が大きくなってきている。既存の価値基準では判断が難しい技術がでてくる時代であるからこそ、テクノロジーをしっかりと理解し判断していくことがより重要になってきている。

本特集号に収録されている論文は、日本ユニシスグループの実践と検証の成果の一端であり固よりすべての領域を網羅しているものではないが、テクノロジーの理解と判断のお役に立てればと願う。

日本ユニシスグループでは、メインフレーム時代から培ってきた基盤技術をもとに Windows

2(2)

でのミッションクリティカルシステムの構築を実現してきた。今後もお客様へのソリューションとサービスの提供を支える幅広い基盤技術として、Windows や Linux 上での高信頼性ミドルウェア、ビジネスプロセスから情報システムまでを一貫して支援するシステム化方法論、ユビキタスネットワークにおけるデータマイニング、などに取り組んでいく。本特集号を通して日本ユニシスグループのテクノロジーに対する取り組み姿勢をご理解いただければ幸いです。

(取締役執行役員 総合技術研究所長)